

# 自立活動だより



紀北支援学校自立活動部

令和3年9月発行

## 愛徳分教室 小学部の取組を紹介します。

愛徳分教室は愛徳医療福祉センター内にあり、多職種の方々子どもたちの気になることや体調の変化等を日々連絡し合い連携することができています。いろいろな経験や学習活動を通して、学校でできるようになってきたこと、リハビリでできたこと、園での様子など情報交換し、連携することでより豊かな生活に繋げていけたらと考えています。そこで、OT（作業療法士）ST（言語聴覚士）PT（理学療法士）、看護師等の話し合いを通して、それぞれの立場で児童の日常をイメージしながら、具体的に進めている内容をまじえ、学校生活へつながっている取組を報告します。

### 小学部3年生 女子 Aさん

#### 自立活動指導目標

- ・気持ちの安定をはかり、周りの大人を支えに活動に気持ちを向け、やりとりの中で言葉を育む。
- ・安定した姿勢を保持し、色々な動きができるようになる。

今回は、【2心理的な安定-①情緒の安定に関すること】 【3人間関係の形成-②自己理解と行動の調整に関すること】を中心に取組んだ自立活動について報告します。

#### 【取組内容】

Aは、身の回りの言葉を覚え、簡単な二語文で話すことも見られるようになりました。しかし、言葉で状況を把握したり、自分の気持ちを表すことは、まだ難しく、疲れていたり、思いが通らないとイライラして気持ちの切り替えができず、活動に気持ちが向かないことがあります。園の生活の中で、自分に関わってほしい気持ちが強くみられ、第三者との関係をつくることの難しさがあると思います。また、同年代の集団の中での生活経験が少ないこともあり、順番が守れないなど社会性の乏しさが見られます。学校では、教師との関わりがAの気持ちの拠り所となるよう、関係づくりを大切に取り組んできました。情緒が不安定な時期には、園での様子をAに関わる、看護師、指導員、PT,OT,STと情報や意見を交換しました。そして、生活全体からAの状況を捉える視点を、学校での関わり方や取組に活かしてきました。自立活動では、ふれあいあそび、大型遊具（ブランコやトランポリン等）等、Aの好きな遊びを通してやりとりをする中で、情緒の安定を図り、自分の気持ちを言葉で表現できるようになってほしいと考え、取り組んでいます。また、体力が付き活動範囲も広がり、興味・関心が園の外へ向きつつあることから、園内散策や園外での活動を設定しました。

#### 【取り組んだ評価】

身体を使ってのふれあいあそびでは、とてもいい表情がみられました。最初は抱っこやおんぶ等身体を密着し、ゆったり力を抜き身体を預けることが苦手でしたが、あそびを繰り返す中で徐々にリラックスして気持ちよく抱っこされることも増えてきました。ブランコやトランポリンは大好きな活動ですが、順番を待つことが難しいことが多々ありました。「ブランコやりたいんやなあ。」と言葉で代弁すると、こっくり頷くのですが、「〇〇ちゃんの次ね」と伝えても、友達が乗っていると自分もやりたいという思いが強くなってしまいます。そこで、自分の順番がわかるボードを提示し、ブランコ



でなくても「まあ、いいか」と思える活動を準備することで、少しずつ気持ちに折り合いをつけられるようになりました。園内散策や園外での活動では、季節の花を見つけ手に取ったり、車やバイク、工事車両を見るのが好きになり、興味、関心の幅が広がりつつあります。

活動を通して大切にしたいことは、『気持ちが活動に向かないときはAの気持ちを代弁し、気持ちを汲みつつ、ルールとして守ってほしいことを伝えること』、『Aが心から楽しいと思える取組を活動の中心にすること』です。今後も園との情報や意見交換から生活全体を捉えることを大切に取り組み、言葉でのやりとりを豊かに、少しずつ自分の気持ちを表現する、伝える経験を重ねていってほしいと思います。

### 小学部4年生 女子 Bさん

#### 自立活動指導目標

- ・はたらきかけややりとりの手段を拡大し、人やものへのかかわりを広げ、自分の気持ちを伝える。

この指導目標に沿って、【5身体の動き-①姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること】 【6コミュニケーション-①コミュニケーションの基礎的能力に関すること】に関わってリハビリスタッフと連携しながら進めてきた取組について報告します。

#### 【取組内容】

Bは、入学時、どの程度随意運動ができるか不明でしたが、かごりん（糸で作った球の中に鈴を入れたもの）に手をのせて、手がずれると音が鳴ることに気づき、かごりんを探すように手を動かし始めました。そのことから、活動に合わせた手の動きを獲得してそれをコミュニケーション手段として活用することを目指し、スイッチやiPadを使って手の随意運動を広げる取組を積み重ねました。その取組の様子を園のリハビリスタッフと共有することで、よりきめ細かく進めることができました。Bは月曜日から金曜日まで、第1限にPT、OT、STの3つのリハビリを受けています。担任は、リハビリの担当者と毎日顔を合わせ、その日の体調や生活リズムの引き継ぎだけでなく、リハビリの内容やその目的、リハビリ時のBの様子をうかがうことができます。学校からは各リハビリに関わる学校でのBの様子や担任が悩んでいることなどを日常的に伝えていきます。Bが随意的に手を動かせるのではないかと伝えると、OTやSTでもスイッチや手を使うおもちゃを活用してリハビリを進め、その様子を伝えてくれます。

#### 【取り組んだ評価】

Bは活動に合わせて少しずつ自分で手を動かすようになってきました。手の動きでYesを表したり、マウスにつないだスイッチでプレゼンテーションを操作して朝の会を進めたり、制作活動で手元を映した鏡を見ながら手を使う等です。Bがお気に入りのブザーがあります。学校でくり返し鳴らしている様子をOTに伝えると、OTでは手をコントロールしやすいようにテーブルにのせる台を作成してくれました。そして、その台とブザーを病室に持ち込むと、看護師が座位保持いすに座らせて、ブザー遊びをさせてくれるようになりました。Bがブザーを鳴らすと、近くにいる病棟スタッフが声をかけてくれます。学校での様子を伝えることで、下校後や休日の活動につながった例です。

施設内での生活は、健康状態の安定が第一で、社会経験を上げることが難しいのは否めません。しかし、その状況の中でも、できるだけひとりひとりの生活が豊かになるように、工夫してくれています。学校でのがんばりを伝えることで、リハビリ担当や病棟との連携が進み、園での生活が広がります。今後もこのような連携を大切にしながら、自立活動を進めていきたいと思います。

